



あおぞら活動プログラム

あおぞらではお子様が日常生活の基本的動作を習得し、集団生活に適応できるような身体的・精神的な状況やその置かれている環境に応じて適切な支援を行います。児童発達支援・放課後等デイサービスの支援の内容を5つの領域に分けています。あおぞらが重点的に大切にしている事を紹介します。

※個別支援計画も5領域の沿って立案・実行・評価・見直しをしています



健康・生活

基本的な生活習慣の獲得を基本に自分で出来る事は自分でする喜びを感じてもらえるようにしています。できないを考えるのではなく、できるにはどうするか工夫しています。また健康を維持するために必要なスキルを身に着ける事(手洗い・うがい・水分摂取・適宜な休息など)をスケジュールに入れてルーティンにしています。また体調不良時にきちんと訴える事ができる事も大切にしています

人間関係・社会性

それぞれの年齢に合わせた集団生活に必要な社会的スキルの獲得を目標にしています。食事や着替え、排泄、歯磨き、手洗いのマナーを始め言葉使い、身だしなみのマナーを練習します。放課後等デイサービスのお子様には買い物やクッキング、電車体験など社会体験を積む練習もしています。またより複雑になる人間関係に合わせ SST などルールや言葉使い、礼儀、謝罪、協力、感謝など人との関わり方をみんなで学んでいます

言語・コミュニケーション

児童発達支援のお子様は語彙の獲得、会話を楽しむことを最重要に、放課後等デイサービスのお子様は社会生活に必要な適切に人に伝える力を身に着ける事をしています。言葉やカード、ジェスチャー、ハンドサインなどその子に合った方法でコミュニケーション支援を行います。言語聴覚士との言語療法も行います

認知・行動

スケジュールカードで時間の構造化を図り、目的別の部屋や整理整頓で環境の構造化、理解度・障がい特性に合わせた手順書や見本の提示で活動の構造化をしています。安心した分かり易い環境で自発性を育み、自分で「できた」の経験を重ねています。また気持ちのコントロールへの支援として自分の気持ちを知る事、伝えて保証してもらう事、コントロールの方法を一緒に考え練習しています

運動・感覚

自分の体を知りうまく付き合えるようになる事を目標にしています。運動面の得意・不得意には得意を伸ばせるようにします。感覚過敏・鈍麻には自分は勿論周囲にも理解を求め生活にうまく取り入れ対処できるようにします。手と目の協応動作の向上にはビジョントレーニングなど楽しみながら身に着けられるようにします。その他に音楽療法も行っています